

メッセージ “一年を振り返って”

国際ロータリー第2660地区

2003～2004年度ガバナー 若林 紀男



ガバナーとして最も重要な公式訪問は、RI テーマ「Lend a Hand」一手を貸そうと四つの強調事項（貧困・非識字・保健・家族）の解説と、地区方針『クラブが主役』“ロータリーは楽しくなければなりません”“クラブは活力がなければなりません”を、86クラブの皆様と共に語り合う場とさせて頂きました。

各クラブでの暖かい歓迎と、実りある対話が出来ましたことに感謝申し上げます。

皆様のロータリーへの熱意と奉仕に対する純粋なお気持ちに触れ、唯々頭が下がりました。

私はガバナー職のスタートに当たり、次の3つの事柄を行う決心をし、実行致しました。

1. 在職期間中に出来る限りロータリーを学ぼう。（ガバナーになってからでは遅すぎますが……。）
2. 困難に直面しても絶対に逃げずに、問題の解決に全力投球しよう。（満足のいく解決であったか……。）
3. 新しく知人となったロータリアンとは、末永くお付き合い出来る間柄になろう。（実は人見知りするのです。信じて下さい……。）

この結果は、私の今後のロータリー生活で答えを得ることになると思います。

今年度は、

- ・I.M.全8組に共通テーマ「教育」をお願い致しました。

今日の日本社会は、どこを見ても理解出来ないことが余りにも多過ぎる。皆で一度、教育を行う側に切り口を持ってきて、考えてみよう・話し合ってみようと思い提案致しました。各組の取り組みは、それは見事であり、感心させられました。

- ・『広報元年』にしよう。

従来のロータリー活動は、内に向っての情報提供や啓蒙が中心であったと思います。今の時代、もっと積極的に、素晴らしい奉仕活動を対外広報すべきだと地区委員会と考えました。今年は又とない絶好のチャンスである「国際大会」が当地区で開催されたからです。実行委員会のご努力で、立派なロータリー広報がなされたと思います。

肝心なのは、継続して対マスメディアとの関係を構築することにあります。

- ・国際大会成功の大きな要因は、ホスト地区の一員として4,352名の登録、ボランティア・ロータリアンに400名超のご奉仕を頂いたことが挙げられると自慢に思っております。もちろん、ホスト実行委員会の要職でご活躍された、当地区パスト・ガバナーのご尽力は言うまでもありません。
- ・各クラブが「クラブ主役」となる為にはどうすれば良いのか。皆様が真剣に考えて下さった結果の表われの1つとして、WCSをクラブ自らで行うことが急速に進みました。
- ・地区委員会も「クラブ主役」を側面から支援する組織だと自覚し、情報提供は勿論のこと、クラブより要請のあった問題を共にクリアする努力をされました。このことも継続して、地区組織の真の目的を完成すべきだと思います。
- ・地区行事の在り方も、踏襲して消化するのではなく、内容の再点検、時代に合っているか、会員のニーズは？等々を考え、簡素・簡潔に行うことを提案し、その実現に努力致しました。
- ・パスト・ガバナーは地区の財産と位置付けし、当地区のメンバーが、この大事な場面では是非大切な財産であるパスト・ガバナーに役割を担って頂きたいと望んだ時に、要請すべきだと考えました。
- ・ガバナー事務所の固定化とスタッフのレギュラー化を進めて参りました。経費節減だけでなく、Know-Howの蓄積、情報の的確化、クラブへのサービスと、色々な面で大きな改善となることを期待し、次年度、次々年度と積み重ねられることを希望致します。

振り返れば、まだまだここに書き切れないほど沢山のことが、この一年間で行われました。

最後に、

地区内全ロータリアンの皆様、ご理解・ご協力、誠に有難うございました。

諮問委員会の大先輩、暖かいご支援、心より感謝申し上げます。

ガバナー補佐、代表幹事並びに幹事団の皆様、ご苦勞をお掛け致しました。

地区委員会の委員長始め委員の皆様、無私のご奉仕に敬意を表します。

月信委員の皆様には、惜しみない努力で編集して頂き、又、表紙選定ではロータリー家族の中許 美代子様にご協力頂きました。厚く御礼申し上げます。

ガバナー事務所の女性軍、素晴らしい内助の功をありがとう。

“皆様の一年間のご奉仕に最敬礼！”